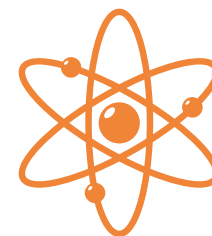


Materiality

2



産業の技術革新 及び再編成

「ビジョン2030」実現に向けた取組

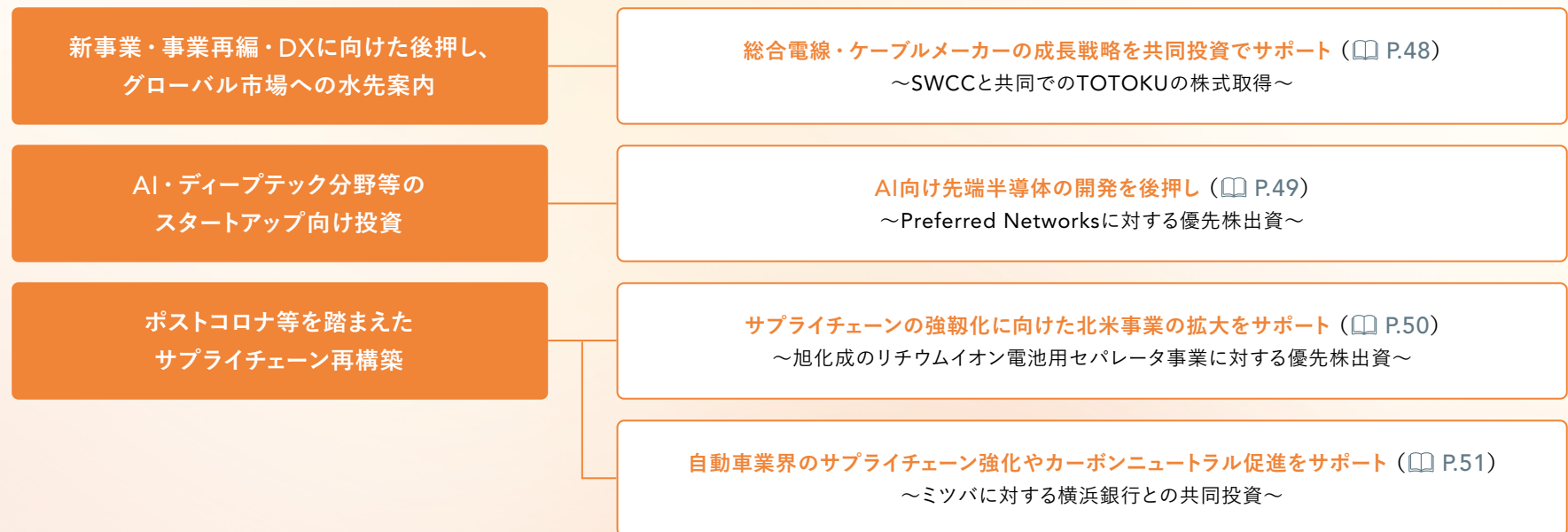
- イノベーション推進を通じた日本の産業競争力強化
- サプライチェーンの再編成

DBJグループは、戦後復興期から現在に至るまで、多岐にわたる産業分野において、技術開発や海外展開、再編等をサポートし、日本の経済成長や産業発展に貢献してきました。

今後、日本経済の持続的成長や国際競争力の維持・強化、脱炭素・資源循環型社会への転換等を推進していくためには、GXやDX等の領域でのイノベーションが鍵となってきます。また、地政学リスクの高まりや、大規模な自然災害等のリスクを踏まえると、製造業を中心にサプライチェーンを再編成・強靱化していくことも欠かせません。

DBJグループは、今後も産業分野における技術革新や再編成等を積極的にサポートしていきます。

なお、米国の関税措置による影響に対し万全の対応を図るべく、本関税措置に特化した対策本部として、「米国の関税措置に関する特別対策本部」(本部長：代表取締役社長 地下誠二)を2025年4月に設置しています。



総合電線・ケーブルメーカーの成長戦略を共同投資でサポート

～SWCCと共同でのTOTOKUの株式取得～

特定投資

インダストリー分野へのリスクマネー供給強化

DBJグループは、「第5次中期経営計画 強化・見直し」において、インダストリー分野への投資専任チームを創設し、産業分野へのリスクマネー供給の取組を強化しています。かかるなか、総合電線・ケーブルメーカーであるSWCC(株)と共同で、特殊電線メーカーである(株)TOTOKUの株式取得を実施しました。

SWCCの成長戦略を共同投資でサポート

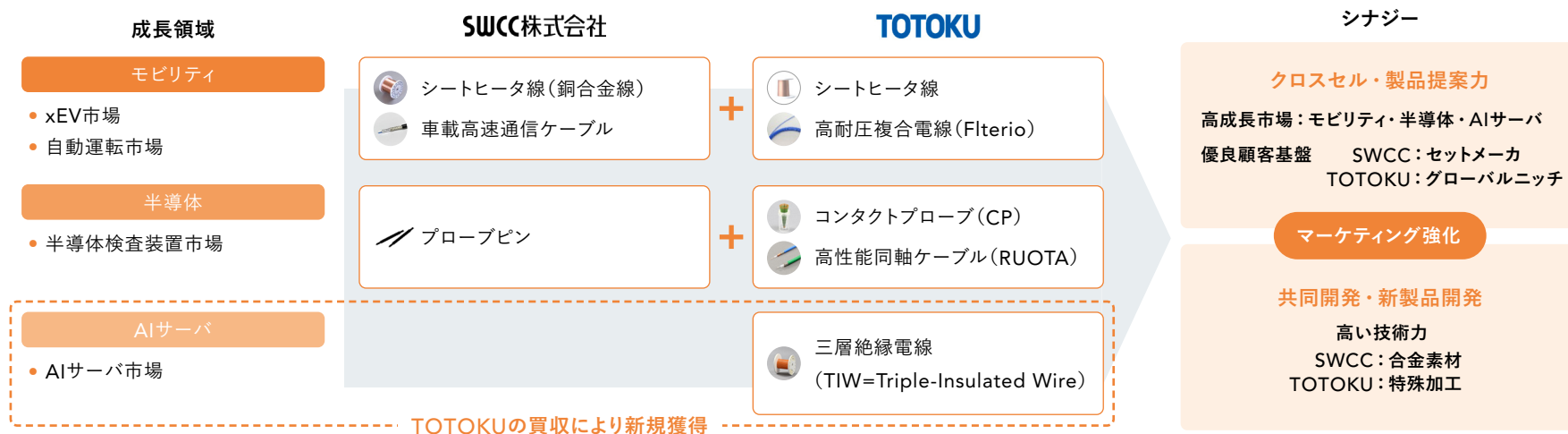
SWCCは、電力インフラをはじめ、モビリティや高速通信インフラといった幅広い分野において、電線・ケーブルをはじめとする製品の製造・販売を行っています。同社は、インフラ事業の深化に加え、成長市場であるモビリティや半導体関連分野でのビジネス拡大を成長戦略として掲げており、その一環として、DBJグループと共同でTOTOKUの株式を取得しました。TOTOKUは、半導体検査装置やモ

ビリティ分野、さらにはAIサーバ分野を成長分野とし、「細く、軽く、小さく」を実現する独自の技術とノウハウに基づく高い競争優位性を有する製品群を抱えており、今後も高い成長が見込まれます。

SWCCによるTOTOKUの株式取得により、両社の技術が融合することで、新たな価値を創造し、モビリティや半導体等の成長分野において高い競争力を発揮することが期待されます。

成長資金の供給を通じた我が国産業競争力強化

DBJグループは、本件がSWCC及びTOTOKUの競争力強化のみならず、日本の産業競争力強化にも資するものであることから、「特定投資業務」を活用し、共同投資によるサポートを行いました。



AI向け先端半導体の開発を後押し

～Preferred Networksに対する優先株出資～

特定投資

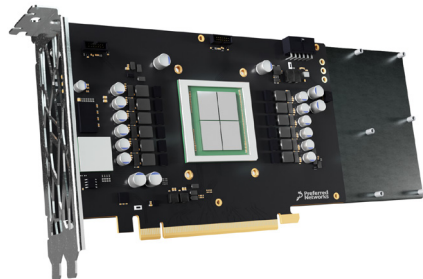
日本発のAIスタートアップによる国産AI半導体の開発・社会実装

生成AIをはじめとしたAI技術の進展により、社会全体の生産性向上やイノベーション創出が加速しています。一方、計算資源となるAI半導体の確保や、データセンターの消費電力急増が大きな社会課題となっています。このような状況のもと、日本発のAIスタートアップ企業である(株)Preferred Networksは、高い計算効率と電力効率を両立させた独自のAI半導体「MN-Core™ シリーズ」を開発しています。当該半導体は、AIの学習・推論フェーズに最適化されており、省電力で高い処理性能を発揮することができます。このため、かかる社会課題の解決に大きく貢献していくことが期待されます。同社は今後、祖業のAIソリューション開発を継続しつつ、低消費電力のAI半導体や独自の大規模言語モデル(LLM)の開発等を推進することで、ソフトウェア・ハードウェアの両面からAI技術の社会実装を促進することを目指しています。

成長資金の供給により、開発を後押し

DBJは、同社がAI半導体事業の更なる拡大を企図し、次世代AI半導体の開発・販売体制等を強化するにあたり「特定投資業務*」を活用し、優先株出資により成長資金の一部を提供しました。今後DBJは、ステークホルダーと協調しつつ、金融面にとどまらない多面的なサポートを提供することで、同社と共に社会課題解決に取り組んでいきます。

*「特定投資業務」の一環である「サプライチェーン強化・インフラ高度化ファンド」を活用



推論用AI半導体「MN-Core L1000」の開発を加速

生成AIでは、学習(モデル開発)に加え、推論(利用)においても、消費電力の増大が社会課題となっています。特に推論では、文章・画像を生成するたびに膨大なデータを読み込んで演算する必要があるので、既存のAI半導体ではメモリの容量と速度がボトルネックとなり、推論需要の増加に応じて消費電力や処理時間も増える傾向にありました。このような課題の解決に向けて、同社は独自のアーキテクチャーを採用することで処理効率を最適化した推論用AI半導体「MN-Core L1000」の開発に注力しています。高速かつ低消費電力で演算可能な当該半導体が普及することで、推論分野における消費電力が低減し、AI利活用の更なる進展につながることを期待されます。

担当者の声



海外企業が独占するAI半導体の国産化に挑戦することは、先端半導体の国内ユースケース拡大や経済安全保障の観点から極めて意義深いと考えています。DBJグループは、Preferred Networksさまの更なる事業成長とAI半導体の国産化に向けて、真摯に貢献してまいります。

サプライチェーンの強靱化に向けた北米事業の拡大をサポート

～旭化成のリチウムイオン電池用セパレータ事業に対する優先株出資～

特定投資

旭化成バッテリーセパレータの発足

リチウムイオン電池(LiB)用セパレータとはリチウムイオンを透過するとともに、ショートを防止する機能を有している多孔質膜のことで、LiBの安全性を確保するための中核的な役割を担う部材です。昨今の世界的なカーボンニュートラルのトレンドを背景に、特に北米における電気自動車市場の成長に伴い、車載向けセパレータの急速な需要拡大が見込まれているところ、旭化成(株)は、2024年4月にカナダに製造拠点を新設することを決定し、同年10月にLiBセパレータ「ハイポア™」事業を承継した旭化成バッテリーセパレータ(株)を発足させました。

旭化成の大型投資に対してリスクマネーを供給

旭化成は、北米において今後拡大する車載向けセパレータの需要に確実に応えていくことを自社の使命としています。DBJは、旭化成のかかる取組が、我が国の重要物資であるLiB部材の供給力強化に資するものと考え、「特定投資業務*」を活用し、優先株出資を実行しました。DBJはカナダ拠点の新設に必要な投資資金の一部に対するリスクマネーの供給を通じて、旭化成の使命をサポートします。

*「特定投資業務」の一環である「サプライチェーン強靱化・インフラ高度化ファンド」を活用



蓄電池サプライチェーンの強靱化を通じて、社会課題に貢献

経済産業省が公表している蓄電池産業戦略において、蓄電池は2050年カーボンニュートラル実現の鍵と位置づけられています。高い技術力を有する旭化成が国内外での蓄電池用セパレータの生産能力を向上させる取組をDBJがサポートすることで、蓄電池サプライチェーンの強靱化、ひいてはグローバルでのカーボンニュートラル実現に貢献していきます。

担当者の声



旭化成さまが40年を超えるセパレータ事業の歴史を土台に今般大型投資を決断されるにあたり、1年以上の時間をかけて最適なサポートの方法をしっかりとディスカッションさせていただき実行に至りました。中長期的な目線での本取組が、旭化成さまの成長やサプライチェーンの強化、ひいてはグローバルでのカーボンニュートラル実現の一端を支えることになればと願っております。

自動車業界のサプライチェーン強化やカーボンニュートラル促進をサポート

～ミツバに対する横浜銀行との共同投資～

特定投資

サプライチェーンの変革期を迎える自動車業界

(株)ミツバは、群馬県桐生市に本社を置く四輪車・二輪車向け小型モーターを主力とする自動車部品サプライヤーであり、高い技術力と顧客要望への対応力を背景に、長年にわたって業界で独自のポジションを確立しています。同社が属する自動車業界は、新型コロナウイルス感染症の拡大や半導体供給制約の影響を受けたなか、国内・グローバル市場における電動化対応を中心に、各完成車メーカー・サプライヤーがサプライチェーンの再構築に対応しなければならない大きな変革期を迎えています。同社は、このような状況に対応すべく、リスクマネーを通じた成長投資が必要な事業環境にありました。

横浜銀行と共にリスクマネーを提供し、サプライチェーン再構築を後押し

DBJは、同社の自動車業界におけるサプライチェーンの再構築及び電動化対応によるカーボンニュートラルの促進を後押しするため、「特定投資業務*」を活用し、メインバンクとして長らく同社をサポートしてきた横浜銀行と共に、優先株出資を実行しました。本件により、同社は、財務健全性を維持しつつ、中期経営計画に基づく成長投資を通じて、二輪車や四輪車の電動化対応を進めるとともに、海外市場を含めた電動車市場での受注拡大を目指します。DBJは、今後もリスクマネーの供給等を通じ、サプライチェーン再構築の取組をサポートしていきます。

*「特定投資業務」の一環である「グリーン投資促進ファンド」を活用

担当者の声



ミツバさまは、自動車業界のサプライチェーンにおいて不可欠な役割を果たすとともに、地域の雇用基盤を支えており、産業・地域の両面で重要な役割を担っています。昨今、自動車業界を取り巻く環境は大きく変化し、企業はその対応を迫られています。DBJは、ミツバさまのサステナビリティ経営に向けたディスカッションを通じて、経営層から部署のご担当者まで複層的な対話を真摯に積み重ね、ミツバさまの経営課題を深く理解させていただきました。こうした対話の結果として、ミツバさまが成長ステージに転換することを目的に本件優先株出資を実施するに至りました。今後も、ファイナンスのみにとどまらないDBJグループの幅広いソリューションを活かしつつ、ミツバさまの一層の成長に貢献したいと考えています。